

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 8年 2月 25日

公表: 令和 8年 3月 21日

事業所名 MIRAIKU

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	同時に異なる2つ以上の作業をする必要がある場合、部屋を分けて支援を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	8	0	利用者数を確認しながら勤務シフトを調整している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	6	利用者の通行の妨げにならないように支援室の配置を意識している。	エレベーターが無い。歩行や階段昇降に見守りが必要な利用者については、必ず見守りや介助を行っている。引き続き、転倒・転落のリスクに注意しながら見守りや介助を継続していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	常に業務内容の見直しを行いながら、朝礼の際、個人の業務内容や目標を共有し、必要に応じて他の職員から助言をもらうようにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	保護者よりいただいたアンケートは直ちに職員で情報を共有し、必要に応じて改善案を検討し、保護者へ連絡するようにしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	0		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	研修は原則参加できるように勤務シフト調整を行っている。日程調整困難で参加ができない研修に関しては、他の職員より情報共有できるようにしている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	必要に応じて保護者同意の上、検査等を実施し、客観的に分析できるツールを用いながら支援を行なっている。	

適切な支援の提供

10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	定期的にS-M社会生活能力チェックリストにて評価している。	
11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	朝礼やミーティングの場で話し合いを行うことで偏らない支援を心がけている。	
12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	月毎にテーマを決め、固定化しないように意識している。	
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	0	学校休業日にはイベントなどの活動を取入れて支援内容の工夫をしている。	
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	日々の活動を通して子どもの様子を観察し個々の子どもの課題に合わせた支援計画を立てるようにしている。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	朝礼で個別対応が必要な利用者については対応の注意点などを話し合うようにしている。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	送りに職員が出てその日中にコミュニケーションが取れない(すれ違い)時もあるため、翌日の朝礼で情報共有を出来るようにしている。	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	サービス提供記録をその日のうちに公開している。利用者の行動の見落としがないように職員を配置している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8	0		
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	児童発達支援管理責任者に加えて、専門的職員が参画している。	
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	必要に応じてミーティングを開催したり学校連携を行っている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	0	病院勤務経験のあるスタッフを配置し、必要に応じて医療機関連携ができるようにしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	0	法人が運営する児童発達支援事業所との情報共有を行い、相互理解に努めております。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	0	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	外部講師を招いて研修を実施している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	2	隔月に1回のパントリーや保護者会で交流を図っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7	1	パントリーの打合せ等で交流がある。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	送迎時や日頃のコミュニケーションを通し、積極的に関わっている。必要に応じ心理相談や面談などを開催するようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8	0	保護者面談時に保護者の皆さまへの情報共有をし、支援の質の向上を目指している。
保護者への説明責任	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	メッセージツールなどを利用し、日頃連絡が取れない保護者にも周知できるようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	メッセージや電話等で悩み相談を受け、それで解決が難しそうであれば、面談日を設け、助言・支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0	年度2回懇親会を開催している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	苦情や保護者より連絡を受けた際、直ちに事業所内の職員に展開し、即日保護者にも連絡するようにしている。

等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	LINEを活用し定期的に情報発信を行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	8	0	個人情報の管理は鍵のかかる書棚で行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	必要な情報を簡潔にかつ明確に伝達するように配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	0	二月に一回パントリー活動を行っている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	年度2回の法定消防訓練を実施しております。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	虐待防止の研修及び「虐待防止ならびに身体拘束適正化検討委員会」を開催しております。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	食品を扱うイベントや毎回通所時のおやつなど、医師の指示書に基づき対応を行っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	発生したら直ちに上長に報告・相談し、対策を話し合うようにしている。	